

食物アレルギー

■ 食物負荷試験の必要性について

血液検査や皮膚プリックテストで原因となる食物抗原を推定することができますが、確定することは難しいです。最終的には、想定される原因食物を除去したり食べてもらったりして慎重に症状を観察することで判定します。また原因食物がわかっている場合でも、特に小児の場合は時期が来ると食べても大丈夫になることが多いので、定期的に（半年から1年が目安）食物負荷試験を行い、症状が出現するかどうかの判定をします。

■ 実際の経口負荷試験の方法について

過去のアナフィラキシーの既往の有無や年齢、および血液検査結果などの危険度に応じて、外来か入院のいずれかで実施します。30分～60分ごとに該当する食品を少量から摂取します。いずれも通常半日で終了します。途中で異常の反応が出現すれば、負荷試験を中止して、症状に応じた治療をします。まれですが、強いアナフィラキシー症状が出現して翌日まで観察入院することがあります（過去の経験では1000例に4-5例程度）。

■ 経口負荷試験後の対応について

検査の結果に基づき、自宅のみならず、保育所・幼稚園・学校での、食事指導やアレルギー症状出現時の指導をしています。

■ 経口負荷試験の主な成績（～2016年3月）

